

牛と人、人間同士の逃走距離

先日日本獣医学術学会年次大会(札幌)に参加してきました。その中のプログラムにNDK共催のコミュニケーション講座があり、講師としてNDK会員の人財科学研究所の工藤智徳氏を迎えて開催されました。その講座の要点です。

1. 人と人との逃走距離

初めて出会う人が、自分のテリトリーにどれだけ近づいたら不快感、逃げる感じになるかを見る距離です。人にも無意識の中に自分のテリトリーがあり、その中に他人が入ってくると不快感を感じます。急に人がすぐ傍に近づくと思わず仰け反るようになる感じです。また、恋人同士のように十分なコミュニケーションがとれていれば、この距離はなくなり、いつも一緒にいたいと感じます。人にも「逃走距離」があることを知りました。

人のテリトリー

人間が無意識の中で作るテリトリーは、片腕が届く範囲くらいで、その範囲内にはいると人は違和感を思えます。共に腕が届かないくらいの範囲内で話をする相手には恐怖心を与えません。顔が近づきすぎると当然ながら威圧感を感じますし、遠すぎると疎外感を感じます。コミュニケーションを取るには、お互いの親密さもありますが、必要とする(テリトリーを犯さない)お互いの距離感があります。

対面形式

対面形式で話をする、その距離によっては威圧感を感じたり、不快感を覚えます。これも逃走距離といえよいのですが、初対面でどのように向き合うかも重要なポイントだそうです。恋人同士の顔の距離は近く、疎遠になれば離れます。

机で向かい合う距離も重要で、どの位置にお互いが座るかで話しやすさが異なります。正面同士で座るよりは、90度くらいの角度を持って座ると良いそうです。お互いが正面(顔)を見つめあうのではなく、少し横に向くことでお互いの顔が見えます。顔を見なくとも話ができる位置が、親しくなる前はよいそうです。女性を口説く場合の座り方になります。

2. 牛と人との逃走距離

この講座を聴講しながら思い出した事は、人と牛の逃走距離についてです。牛と人との逃走距離とは、人間が牛にどれだけ近づいたら牛が逃げるかをみる尺度で、人と牛とのフレンドリーさ(親密さ)を測る手法です。牛が人間に対して恐怖心を抱いていれば、その逃走距離は長くなり、遠くで人間の顔を見ただけで逃げるようになります。人間に子供の頃から慣れ親しんでフレンドリーさを持っていれば、手の届く範囲に来ても牛は逃げません。かえって興味のある人間が来たとき、人の周りに集まってきます。所が、牛をいじめている農家(本人はそのように思っていないが)では、牛は人の顔を見ただけで逃げていきます。人の近くには寄らないで、常に人から逃げようとします。つなぎ牛舎では一斉に立ち上がり、農家の顔を見ます。その後排糞をしたり、体を動かし、人の行動を観察しようとし

す。これにより、情報を集めようとするのかもしれない。

牛は人の顔を区別でき、いつも牛をいじめている人は区別されます。その人を見るだけで逃げるようになります。逃げられない場合には、恐怖心を抱き震えたりします。この状況での搾乳は、牛は牛乳を出す所ではなく、牛乳を下ろさなくなり乳房炎の元になります。オキシトシンよりもアドレナリンを分泌してしまいます。

3. ヘッドバイパス

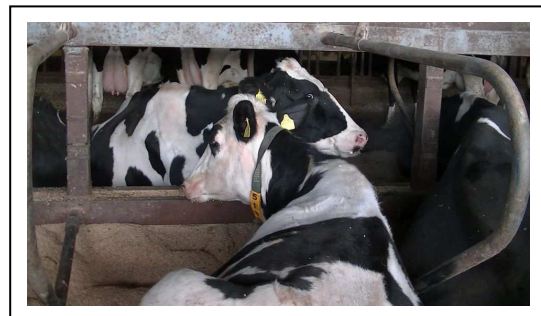
ヘッドバイパスとは、フリーストール牛舎でのストール(牛床、ベッド)の作り方で、頭合わせで牛が寝ると正面に他の牛がいる形を言います。この時に牛同士がどのように思うかが重要です。口臭が臭うくらいの位置に他牛が来ます。先ほどの人の場合と同じように、いやな人が正面に来るのは気が休まりませんし、近づきすぎても安息感はないでしょう。ちょうど人では圧迫感を覚える位置取りになります。これでは牛が寝る意欲をなくしたり、あの人の正面には寝たくないなどと思うかもしれません。この気持ちを少なくするためにもベッドの構造は重要です。

この牛の気持ちを思うと、ベッドはヘッドバイパスではなく、2列シングルストールとなりますが、2列シングルでは1列は外に向くので、この外側のベッドは気候の影響を受けるようになります。雨が吹き込む、雪が吹き込む、日光が差し込むなどゆっくり寝られない環境を作ることもあります。これを避けるために、ベッドの長さを長くする必要があります。

2列シングルストール



ヘッドバイパスのストール



4. その他

受け方：

立ち位置や座る位置では正面を避ける。やや斜に座る事で視線を正面にしない。
傾聴するー自分が話すことより相手に話をさせて、うまく聴いてあげる事。

聴くための3T

相手の声のトーンに合わせ、テンポに合わせ、タイミングを見て合いの手を入れる。

伝え方：愛あるメッセージ 主語を自分に置き換えて。

あなたはいい加減 私はあなたにいい加減さを感じる。

事実と意見・考えを分ける

挨拶は朝のコミュニケーション まずは形からでも入ること